

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公開  
 ⑪ 公開特許公報 (A) 昭62-64132

⑥Int.C1. 4	識別記号	厅内整理番号	⑩公開 昭和62年(1987)3月23日
H 04 B 1/16		M-6745-5K	
H 04 H 1/00		D-7608-5K	
H 04 N 5/00		6517-5C	
7/10		6668-5C	審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑪発明の名称 テレビジョン受像機

⑪特願 昭60-203717

⑪出願 昭60(1985)9月13日

⑪発明者 尾崎博行 門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内  
 ⑪出願人 松下電器産業株式会社 門真市大字門真1006番地  
 ⑪代理人 弁理士 中尾敏男 外1名

明細書

1、発明の名称

テレビジョン受像機

2、特許請求の範囲

音声検波信号を入力する緊急警報放送受信回路を備え、前記回路及びチューナー部、選局回路部、映像、音声中間周波増幅検波回路へテレビジョン受像機本体の電源入切にかかわらず常時電源を供給する待機電源回路を有し、選局回路が選局情報を記憶したメモリーに従って制御され、前記メモリー内に視聴者が電源切断する直前に選局中であったチャンネルを記憶する番地を有し、再度電源が投入されるとその切断される直前のチャンネルが受信され、待機状態では前記メモリーの選局情報を第1ポジションに相当するチャンネルが受信されるようになされたテレビジョン受像機。

3、発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、緊急警報放送受信機を内蔵したテレビジョン受像機の選局制御装置に関するものであ

る。

従来の技術

従来の緊急警報放送受信機の一例の構成を第2図に示す。これは常時テレビ音声を受信しておぐ必要上、待機電源アによってチューナ2、チューナ2を所定のチャンネルにて受信可能とせしめる為の選局回路3、その選局を制御する制御回路4、映像中間周波増幅検波及び音声中間周波増幅・検波部5に電源を供給している。検波された音声信号は、緊急警報放送受信デコーダ6と音声増幅出力段8へ供給されている。緊急警報放送受信デコーダ6も常時動作している必要がある為待機電源アによって電源が供給されている。

緊急警報放送が受信されると、緊急警報放送受信デコーダ6よりの制御信号bにて制御回路4を制御し、待機電源アよりの電源を音声増幅出力段8へ供給し、緊急警報放送をスピーカ11に上って可聴せしめるようになしている。視聴者がテレビの電源スイッチを投入した時は、制御回路4にてその操作を検知し、電源回路9を制御して映

像処理、偏光処理回路に電源を供給して、テレビジョン受像機の残りの回路全てが動作するようになる。このとき、制御回路 A 4 によって電源回路 9 が動作した事を検知し、制御信号 C を制御回路 B 10 に送って音声出力段 8 の電源も供給されるようになっている。

かかる構成の緊急警報放送受信機内蔵テレビジョン受像機の制御回路をより詳細に第3図に示す。マイクロコンピュータ 15 の入力ポートの一群 d へはキーマトリクス回路 13 が接続されており、チャンネルポジションを指示するキー、電源を投入・切断するキー等がマトリクスされている。マイクロコンピュータ 15 の I/O ポートの一群 e はメモリ 16 と選局回路 3 へ接続されている。メモリ 16 は不揮発性メモリ又はバッテリーでバックアップされたメモリーである。選局回路 3 は D/A 変換器、バンドラッパ回路、ローパスフィルタで構成されており、電子同調チューナへ同調制御電圧、UHF と VHF のハイバンド、ローバンド切換電圧を与えるようになっている。電源ク

であったチャンネルデータを選局回路 3 へ送り、電源が切断される直前と同じチャンネル（以下ラストチャンネルと呼ぶ）を受像できるようになっている。

また、マイクロコンピュータ 15 が電源を切断する時はメモリ 16 の番地 W の内容を読み出し、待機チャンネルポジションのチャンネルデータを選局回路 3 へ送る。待機チャンネルポジションはプリセット時に緊急警報放送チャンネルを記憶したポジションデータをキーマトリクス 13 の緊急警報放送チャンネル記憶キーが押されると、マイクロコンピュータ 15 によってメモリ 16 の番地 W に書き込まれる。以上により待機時 12 は緊急警報放送チャンネルを受信できるようになっている。

#### 発明が解決しようとする問題点

ところが、この従来の構成の緊急警報放送受信機内蔵のテレビジョン受像機では、緊急警報放送チャンネルのポジションを記憶するメモリ番地が必要であり、メモリのコスト高を招くとともに、

リア回路 14 は待機電源アの電源がマイクロコンピュータ 15 へ加えられてから一定時間後に正常動作になるまでマイクロコンピュータを動作させないよう信号を加えておくものである。

マイクロコンピュータ 15 の出力端子 f はメモリ 16 へ接続されており、メモリ 16 への書き込み、読み出しを制御するようになっている。メモリ 16 はチャンネルデータを記憶させる領域 M1 ~ Mn、選局中のチャンネルポジションを記憶する番地 L と待機チャンネルポジションを記憶する番地 R と、電源入切の状態を記憶する番地 P を持っている。マイクロコンピュータ 15 はキーセンスをしており、キーマトリクス回路 13 の電源キーが押された時、メモリ 16 の番地 P が電源切を示す状態であれば、メモリ 16 の番地 R へ電源を投入する制御信号を、メモリ 16 の番地 P が電源入を示す状態であれば、R へ電源を切断する制御信号を出力する。マイクロコンピュータ 15 が電源を投入する時はメモリ 16 の番地 L の内容を読み出し、電源が切断される直前に選局中

プリセット時にどのポジションかを記憶させるスイッチが必要となる。

また、選局動作中もメモリの番地を読み出しに行くなど処理が複雑になる。

さらに、テレビジョン受像機はブラウン管に高電圧を使用している。この高電圧により、ブラウン管に管内放電を起させ、メモリ内容を破壊させてしまう可能性が有り、一旦破壊されてしまうと動作チェックなどを行い、再設定をしないと、地図予知情報やその他の緊急警報を待機中に受信できないことになるなどの欠点を有している。

本発明は、これらの欠点を解消した装置を提供することを目的とするものである。

#### 問題点を解決するための手段

本発明の緊急警報放送受信機内蔵のテレビジョン受像機は、メモリの電源入切の状態を記憶する番地が電源切を示す状態、すなわち待機中であれば、無条件にメモリの選局情報の第一ポジション M1 のデータを読み出し、選局回路へ送る。よって、選局情報をメモリに記憶させる時、メモリの

選局情報第一ポジションM1に緊急警報放送チャンネルを入れれば、待機中に緊急警報放送を確実に受信することができる。

#### 作用

本発明のテレビジョン受像機によれば、選局情報を記憶するメモリの選局情報第1ポジションに緊急警報放送チャンネルを書き込むことにより、上記メモリに緊急警報放送用に特別な番地を設けることなく、またスイッチなどの構造物をつけることなく、待機中に緊急警報放送が受信可能な状態に自動的に設定することができ、視聴者が電源を切断するときに緊急警報放送サービスを行っている局を選局してから切断する作業をなくすことができる。

#### 実施例

第1図に本発明の一実施例のテレビジョン受像機の構成を示す。メモリー18は不揮発性メモリーであり、チャンネルデータを記憶する領域M1～Mn、選局中のチャンネルポジションを記憶する番地Lと、電源入切の状態を記憶する番地Pを

報放送が送信されれば必ず、緊急警報放送受信デコーダによって、その放送が受信されることになる。

停電等によって待機電源7が切断された時は、次に待機電源7が起動した時、電源クリア回路14によって一定時間後にマイクロコンピュータ17が再度動作可能となった時に、マイクロコンピュータ17は、最初にメモリー18の番地Pの内容を読み出し、電源切の状態であればM1のポジション1のチャンネルデータを選局回路3に転送し緊急警報放送を行っている局を選局して受信待機状態にする。メモリー18の番地Pの内容が電源入の状態であれば、番地Lを読み出して、ラストチャンネルデータを選局回路3へ転送し、視聴者が最後に選局中であったチャンネルを選局する。

電源回路9は従来例と同一構成であり、パワーリレー等によってマイクロコンピュータ17よりの出力9によって制御されている。待機電源7、電源クリア回路14は従来例と同一構成であり、マイクロコンピュータ17の入力端の一群4、出

持っている。マイクロコンピュータ17によって選局中のチャンネルポジションを記憶する番地Lは選局動作がなされる毎に書き替えられ、番地Pは電源入切毎に書き替えられる。

マイクロコンピュータ17はキーマトリクス13によって特定チャンネルが選局される毎に、メモリー18のそのチャンネルデータを選局回路3へ転送する。選局回路3は第2図にて説明したものと同一構成である。

キーマトリクス13の電源キーが押されると、マイクロコンピュータ17はメモリー18の番地Pの内容を読み出し、電源入の状態であれば電源を切断する制御信号を出力し、電源回路9を切断する。この後マイクロコンピュータ17は、メモリー18のM1のチャンネルデータを選局回路3へ転送する。したがって、電源が切断で緊急警報放送受信機内蔵のテレビジョン受像機が待機状態の時は、必ずポジション1のチャンネルが受信されており、ポジション1に緊急警報放送サービスを実施している局を記憶させておけば、緊急警

力端の一群9、出力端7も第3図と同一のものである。このようにメモリー18内に緊急警報受信のために特別な番地を設けることなく、電源回路9がオフの時は、ポジション1に、電源回路9がオンになるときはラストチャンネルより選局される。

#### 発明の効果

このように、本発明によれば、メモリーに緊急警報放送用に特別な番地を設けることなく、またスイッチなどの構造物をつけることなく、待機中に緊急警報放送が受信可能な状態に自動的に設定することができ、視聴者が電源を切断する時に、緊急警報放送サービスを行っている局を選局してから切断する必要をなくすことができ有用なものである。

#### 4、図面の簡単な説明

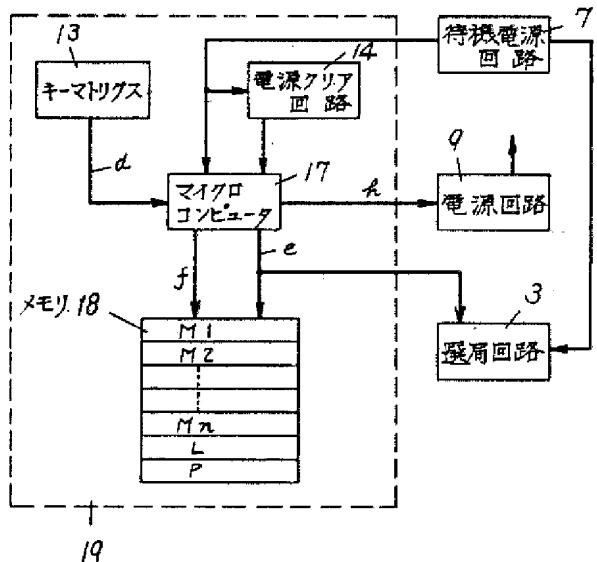
第1図は本発明の一実施例におけるテレビジョン受像機の選局制御回路のブロック図、第2図は従来例の緊急警報放送受信機内蔵のテレビジョン受像機のブロック図、第3図はその選局制御回路

のブロック図である。

2 ……チューナー、3 ……選局回路、4 ……制御回路 A、6 ……緊急警報放送受信デコーダ、7 ……待機電源、8 ……音声増幅出力段、9 ……電源回路、10 ……制御回路 B、11 ……スピーカ、13 ……キーマトリクス回路、17 ……マイクロコンピュータ、18 ……メモリー。

代理人の氏名 弁理士 中尾 敏男 ほか1名

第 1 図



第 3 図

第 2 図

